教 区 報

第115号　2021年6月

日本ハリストス正教会教団
東日本主教々区

発行：東日本主教々区宗務局
〒980-0021　仙台市青葉区中央３丁目４番20号
電話　022-225-2744　fax　022-224-3080　　http://www.orthodox-sendai.com/
振替　02200-2-30428「東日本主教々区宗務局」　orthodox@hyper.ocn.ne.jp

聖五旬祭（聖神降臨祭）

崇め讃めらるる哉ハリストス我等の神よ、
爾は漁者に聖神を遣して睿智者と為し、
彼等を以て世界を漁し得たり、人を愛する主よ、光栄は爾に帰す

主は復活されて四十日目に使徒達の前で昇天され、雲のうちに聖神を遣わすと約束された。かつて旧約の民がモイセイから石板を受けた契約の成就である。主イイススは神性だけでなく人性をも備えたまま、諸天のあらゆる高みを超え神・父の右に座られた。果たしてその十日後に聖神の降臨は起こったが、この賜物は初めてのことではなく太祖、預言者、聖者達に続く使徒、伝道者、神品等にも与えられ、更に信仰を守った人々を養われていたのである。

使徒達の聞いた風の轟きはやがて聖ニコライの福音のラッパとなり、鳴り響いた日から恵みの雨が降り、聖神の祝福の流れとなって渇いていた日本の大地を潤し、暗闇を照らす新しい光が輝き放たれた。その炎のような熱い舌は人々に理解を与え、今日も輝きを放ち、人の新しい生き方を示した。聖神はそれぞれに特別な方法で私達のなかにも住まわれたが、ご自分の住まいの中を暗い、冷たいものとすることは望まれない。もはや神に捉えられ、力と勇気を与えられた私達は、愛に満たされて至聖三者の光栄を今日も讃美している。尽きぬ泉のなかで共に祈り、備えられた道を歩み続けてゆきましょう。

ハリストス復活！実に復活！

5月2日(日)の主の復活大祭は、この日教区の各地で執り行われ、またこの日を皮切りに巡回教会でも順次盛大にお祝いされた。コロナ禍で様々な制限が行われたが、祭の祭・祝の祝を待ち望んだ信者は、皆元気よく「ハリストス復活！実に復活！」との声を挙げた。

セラフィム大主教座下はニコライ堂で復活大祭をご司祷され、緊急事態宣言下ではあったが盛大にお祝いされた。

■仙台　昨年同様真夜中ではなく朝10時から行われたが、昨年より参祷者も多く50名ほどの信者が集まり、天候にも恵まれ、十字行と玄関前での復活祭の開始の祈りも滞りなく行うことができた。昨年復活祭のお祈りが出来なかった中新田では、新聖堂初の復活祭となった。

■盛　例年、盛は教会暦の次の週の夜中に行われるが今年は5月9日の朝に行われた。前日の早課には7人、復活祭

には8人の青年会の堂役が手伝った。祈祷後30名余で墓地祈祷。全ての墓前に花が手向けられた。

■**函館**　信徒会館の仮会堂の復活祭。十字行は聖堂を巡ることが出来た。今年は早くから聖歌練習に取り組み、新曲に挑戦。美しいハーモニーと躍動感にあふれる聖歌に復活の歓びも一層増した。

札　幌

札　幌

■**札幌**　感染防止の観点から残念ながらも早課、時課を省略した聖体礼儀のみの形だったが、コロナ禍にあっても50人以上の方が参祷され、特に外国人の方が多く参祷した。自粛した方が多かったが、喜びに満ちた聖体礼儀となった。

釧　路

■**釧路**　10時より十字行、早課、聖体礼儀を執行。一人ずつ木製スプーンを用いるので安心して領聖するよう呼びかけ、昨年のコロナ禍発生から最も多くの参祷・領聖者を得ることができた。インターネットでのライブ配信も行い、視聴した信徒からは感謝の声が寄せられた。

釧　路

■**盛岡**　盛岡管轄区では、今年の復活祭はゴールデンウィーク中にすべて行われた。特に盛岡では十年以上ぶりの深夜の復活祭となり、皆で工夫と協力をし、滞りなく祭を行うことができた。この喜びを翌年以降にも繋げていきたいものである。

北　鹿

■**石巻**　石巻教会では、午前8時半より夜半課を始め、十字行、早課、聖体礼儀と通常通りのパスハを行った。また、今年は管轄内の他の教会からも多くの方が参祷してくださった。今後も当日に、管轄区一丸となってお祝いを続けたい。

盛　岡

石　巻

石　巻

セラフィム大主教座下のご動静

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、大主教座下の教区内各教会への巡回は全く行うことができない状況にある。しかし、仙台と東京での奉神礼や会議等は継続されており、特に東京では基本的に月2回の主日聖体礼儀をご司祷され、また大斎、受難週、復活祭の奉事の他、各種会合にも出席なさっている。

▲　1/15 セラフィム大主教座下の聖名祭が仙台教会において祝われた。教区神品を代表して宗務局長のマルコ小池神父が陪祷された。聖体礼儀の後、花束と仙台教会の婦人会・方舟会・聖歌隊よりお祝いが贈られた。今年はコロナ禍により、聖名祭を祝う祝賀会は中止となつた。

▲　1/24　ニコライ堂の屋外にて大聖水式

▲　2/15　亜使徒聖ニコライ祭にダニイル府主教座下と聖ニコライの不朽体の前で

▲　3/17　ニコライ堂での先備聖体礼儀

▲　3/25 ロシア正教会駐日ポドボリエのニコライ・カツバン神父がニコライ堂に滞在中のセラフィム大主教座下を訪問。お誕生日のお祝いに聖像を贈呈。

▲　3/16　晩堂大課　アンドレイのカノンの読み（ニコライ堂）

▲　4/11 ニコライ堂にて階梯者イオアンの主日聖体礼儀をご司祷された。

▲　4/13 神学院のミーティングにご出席。先に実施された神品教役者養成短期プログラムの報告を受け、今後の日程と内容を検討された。

▲　4/29　聖大木曜日に予備聖体を作る（ニコライ堂）

▲　4/24　聖枝祭の徹夜祷で枝の成聖（ニコライ堂）

▲　5/2　ジョージア臨時代理大使レジャバ氏より山田正教会への寄贈イコンを託された。

▲　5/2　復活祭の十字行を終えて、ニコライ堂の玄関前で「ハリストス、復活！」「実に復活！」

◀　5/2　ニコライ堂で復活祭の奉神礼をご司祷なさった。コロナ禍のため深夜の祈祷と祝賀会は取り止め、日曜の朝から夜半課・早課を始め、聖体礼儀へと入った。緊急事態宣言下にあったが、久しぶりに鐘が打ち鳴らされ復活祭の喜びが響きわたった。

正教会の祈祷ではしばしば「安和」「平安」という言葉が使われます。連祷の第一句は「我ら安和にして主に祷らん」ですし、司祭はしばしば会衆に「衆人に平安」と祝福をします。また、現在日本の教会で使われている聖体礼儀の楽譜で「親しみのささげもの」と歌われている箇所は、司祭の奉事経（祈祷書）では「安和の憐み」という言葉が当てられています。さらに聖体礼儀の最後には「平安にして出ずべし」と祈ります。このように、私たちの祈りは「安和・平安」の祈願に貫かれています。ではこの「安和」「平安」という言葉は何を意味するのでしょうか。

福音書において主イイススは弟子たちに「平安」という言葉を何度も用いています。聖使徒イオアンの福音書によれば、主は受難の直前、弟子たちに「私は平安をあなた方に残していく、私の平安をあなた方に与える（14：27）」と言い、また復活の後に弟子たちに現れたときの第一声も「爾らに平安（20：19）」でした。ハリストスを信じる私たちには皆この主からの平安が与えられます。

逆に「安和・平安」が無いというのはどういうことでしょうか。それは「不安・怯え」です。何が私たちを不安にさせるのかと言えば、それは「死」です。アダムが罪を犯して以来、人間は神の永遠の生命を離れ、死を避けられないものとなりました。アダムの罪の本質は、自分自身を神との関係から切り離し、自ら「神のような（創世記3：5）」ものとして振舞おうとした傲慢さです。神をもはや不要として、傲慢にも自分自身を神から切り離した人間には「死」がついてきました。生命の源は神であり、その神から離れては人間はわずかな時しか生きられないのです。自らを支配するものが死であることに気付いた人間は「不安」に捕われます。「傷ついたら死ぬ」、「腹が減ったら死ぬ」、「病気になったら死ぬ」。これらの不安が人間に次の罪をもたらします。自分を死の不安から遠ざけようと、手当たり次第に欲望の触手を伸ばします。それは貪欲さや浅ましさ、名誉欲、支配欲、他者を踏みつけにしてでも自分の利益を得ようとする罪の心です。永遠の生命を見失った「不安」な人間はますます罪深いものとなっていきます。

主は「爾らに平安」と弟子たちに言いました。

安和・平安

司祭　ピーメン　松島　拓

そんな人間を救い、再び永遠の生命への道筋をつけるためにこの世にお生まれになったのが、神の子イイスス・ハリストスです。イイススは自らを「道、真理、生命（イオアン14：6）」であると言い、人はハリストスと一体になることによって、再び永遠の生命に与る者となることができると示されました。

永遠の生命を信じそこに希望を持つ人間には、もはや「不安」はありません。神が約束してくれた生命があるので、本当の「安和・平安」を得ることができます。初代教会の時代、致命者たちは燃え盛る業火や、獰猛な獣を前にしても、決して怯えず、神の永遠の生命に入れられることに希望と喜びを持って、自らのこの世の生命を捧げました。彼らは死をもって本当の「安和・平安」を証明したのです。

東日本大震災から十年

2021.3.11

２０１１年３月11日の東日本大震災の発生から今年で十年を迎え、大きな被害を被った山田、盛、石巻の沿岸三教会で震災犠牲者のためのパニヒダが献じられた。当初は十年という節目でもあり、東北ブロック合同パニヒダの構想もあったが、昨今のコロナ禍の影響もあって、例年通り各教会での開催となった。

また仙台教会では３月14日（日）の月例パニヒダとともに、震災パニヒダが行われた。

▲　篤信な信者の献花を前にパニヒダ（山田）

▲　臨時大使を囲んで（山田）

【山田】　津波の後、町を襲った火災によって会堂を焼失した山田教会は、この十年で仮会堂の設置を経て２０１８年に新会堂が建設され、現在ではそこで毎月聖体礼儀が捧げられている。聖堂再建にあたってジョージア国の信徒から鐘の寄贈があった縁で、パニヒダには東京の駐日ジョージア大使館からティムラズ・レジャバ臨時代理大使が参祷し、犠牲者のために祈りをともに捧げた。その後、山田教会の信徒と大使と、山田教会のここまでの苦労をしのびつつも、楽しい食事を共にし交流した。

▲　盛正教会でのパニヒダ

【盛】　例年通り、震災犠牲者のためのパニヒダが献じられた。震災から十年がたち当時子供だった信徒子弟の成長に時間の経過を感じることとなった。またパニヒダの後墓地祈祷が行われた。

▲　石巻正教会でのパニヒダ

【石巻】　震災の被災者のためのパニヒダが行われ、多くの参祷があった。共に未信徒を含む全ての永眠者の永遠の記憶を祈った。

東北ブロック宣教会議

2月10日㈬、一関正教会で東北ブロックの宣教会議が開催された。主に教区としての出版活動について話し合いを行い、また来年度の教区活動について、コロナ禍の続く中、どのような工夫をしたらよいかを検討した。また例年5月に開催されている東日本主教区東北ブロックの拡大宣教会議は各教会の執事長も会する大規模な会議であるが、今年も新型コロナウイルスの影響で、そのような会議開催は不可能となった。そのため、東北ブロックの司祭4人のみが集まった宣教会議が5月18日㈫に仙台において開かれた。主に「教区会議」への準備や来年度の活動計画について話し合われた。

▲ 宣教委員を交えたブロック宣教会議　2/20　一関

▲ 東北ブロックの司祭による宣教会議　5/18　仙台

北海道ブロック宣教会議

今年度の拡大宣教会議として予定されていた会議は諸般の事情を考慮して、司祭会議として北海道内の4人の司祭が集まって5月11日㈫に苫小牧で行われた。

各教会の活動報告の他に、次年度の行事計画立案を行った。コロナの状況改善が見通せない中、初回の宣教会議をリモート会議で実施することを決めた。また聖歌研修会と誦経堂役研修会を分離して開催することを決め、研修も内容によってはリモートによる実施を検討することとし、計画が全く未実施にならないように工夫して行くことも話し合われた。

聖堂保存修理工事の進捗　函館ハリストス正教会

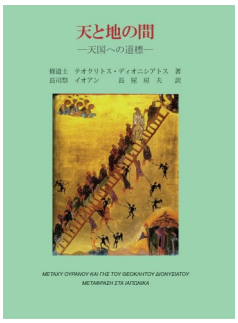
令和３年１月中旬に聖堂内の物品を信徒会館へ引越した後、本格的な工事前の準備は三月十六日㈫、工事の無事を願ってモレーベンが献じられて始まった。

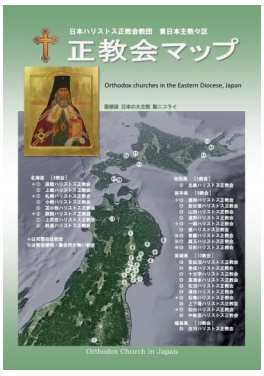
聖堂内のシャンデリヤ、イコノスタスのイコンは取り外され、一部は仮設建物へ移動して保管された。仮設建物は三棟あり、事務所、イコン修復作業場、保管庫として使われる。工事車両の搬入路は信徒会館の通用路を拡幅し、砂利を敷いた。聖堂周囲の仕切石や植栽は取り外されて、別な場所で保管される。本工事は鐘楼部分の耐震化から始まるが、事前に聖堂脇を掘削して基礎の確認が行われ、足場も組まれた。

５月中には鐘楼の壁を掘削して補強材が挿入される。その後、今年度は屋根廻りの解体と小屋裏の配線工事、屋根葺き替え、聖堂内天井の補修などが予定されている。

コロナ禍による人の移動制限や計画変更などにより、来年11月末までの工事はすでに再来年春までの延長が見込まれている。時間はかかってもきちんと修復されて、無事竣工することを願っている。

出版物案内





昨年発行され各教会で配布された「天のパン」が増刷された。前回入手できなかった方はぜひこの機会に。無料配布。またアトスの修道性について描かれた本を駐日ロシア教会ポドヴォリエ所属のイオアン長屋神父様が翻訳された「天と地の間」が新装再版となった。1300円での頒布。

また最新の情報と写真が掲載された「東日本主教教区・正教会マップ」が発行され、配布が開始された。これからの宣教の大きな助けになることを期待したい。

前駆授洗イオアン

"THE ORTHODOX STUDY BIBLE"
St. Athanasius Academy of Orthodox Theology
p.1332 "John the Baptist"

翻訳：ナデジダ清水彩子
監修：長司祭ダヴィド水口優明

「イオアン 野に在りて洗を授け、罪の赦の為に悔改の洗礼を伝えたり（マルコ 1：4）」。

前駆授洗イオアンは救いの歴史の中で重要な役割を果たしています。

彼は、生まれる前から救世主の使者および前駆として選ばれていました[1]（ルカ 1：13-17）。すなわちその主ハリストスを最初から知っていました。

ルカはイオアンの奇跡的な懐妊をその福音書の中に記しています（ルカ 1：24）。そして、授洗イオアンを孕んで6か月だったエリサヴェタの所へ童貞女マリヤが訪問した際、エリサヴェタの胎内の子がマリヤの声の音を聞いて躍った事を記録しています。

「主の道を備えよ」（マトフェイ 3：3 マルコ 1：3 ルカ 3：4 イオアン 1：23）と野に呼ぶ者の「声」であるイオアンは、救世主に先立ってイリヤが再来するだろうという預言を成就した、とイイススは教えました（マトフェイ 11：14）。

イイススがその公的な働きを始める少し前、イオアンは救世主の為にその道を整えるためヨルダンの荒野に出て行きました。

神の国を待ち望む悔い改め、罪の赦しの為の洗礼、義の実を結ぶ努力、属神の教練などの特徴をもつ彼の門弟の集団と共に、イオアンはその預言者としての役割を果たしました。

イオアン自身も貧困と斎の禁欲的規則に従って生きました。事実上、彼は生涯に亘ってナジル人[2]であった可能性があります（ルカ 1：15 民数記 6 章）。彼の眼差しは肉体とその欲望ではなく、ただ主ハリストスを見つめました。

イオアンの活動の影響は広く行き渡りました（マルコ 11：32 ルカ 7：29 使徒行実 18：25、19：1-7）。

イオアンは、彼自身より測り知れない程に偉大な救世主の到来を預言しました。彼は、自分は「かがんで、そのくつのひもを解く値うちもない」（マルコ 1：7）と言い、このお方が水だけでなく聖神を以て洗礼を授けるだろう（マルコ 1：8）と言いました。

イイススが洗礼を受けるためにイオアンの前に現れた時、彼は自分の方こそイイスス・ハリストスによって洗礼を受け

る必要があると悟って辞退します（マトフェイ3：14）。しかし、イイススは「凡その義を尽くす（マトフェイ3：15）」ために何が相応しい事か知っていました。結局、イオアンはイイススに従いました。

このようにして、正教会のイコンの中でよく知られる出来事が起こりました。ヨルダン川でイオアンによって洗礼を受けるハリストスの上に、鳩の形をとった聖神が降ります。そして神・父の声が天から「これは我の至愛の子、我が喜べる者なり（マトフェイ3：17）」と宣言します。[3]

イオアンの務めはイイススの働きにとって極めて重要でした。イイススはイオアンの証言を重要だと考えました。それは、神の子であるイイススが人間の証人によって実証される必要があったからではなく、人々がイオアンを神の人として受け入れていた事が、イイススをも同じように受け入れる事の準備となったからです（イオアン5：33-35）。

イイススの最初の使徒はイオアンの門弟で（イオアン1：35-39）、イウダの裏切りによって使徒団に出来た欠員もイオアンの弟子の一人によって埋められました（使徒行実1：22）。

前駆授洗イオアンはハリストスの[4]致命者として亡くなりました（マルコ6：24-29）。正教会は毎週火曜日だけでなく、年間を通じて指定された祭日に特別な聖歌で彼を[5]記憶します。

訳注

(1)、イオアンは「使い（アンゲロス）」（マルコ1：2）と呼ばれており、その修道的生活からも「天使」に近い存在と認められるため、イコンの中でしばしば天使のような翼をもつことがある。

(2)、ナジル人とは、誓いを立てて、ぶどう酒を飲まない、髪を切らないなどの約束を守り、神に身を捧げた人たちのこと。

(3)、ここに至聖三者（三位一体）の神が現れている。

(4)、イオアンはヘロデ王によって斬首されて致命した。しかし、正教会は、イオアンは前駆として先に死の世界に降ってハリストスの復活を死者たちに預言するために致命したと言う。

(5)、前駆授洗イオアンに関する祭日・記憶日は以下のとおり。「誕生祭（7月7日）」「斬首祭（9月11日）」「会聖祭（1月20日）」「首の第一の発見、第二の発見（3月9日）」「首の第三の発見（6月7日）」「懐孕日（10月6日）」。なお、イオアンは生神女マリヤと共にハリストスにとりなしの祈りをする者として、「デイシス」のイコンに書かれる。

公　示

東日本主教々区各教会
教役者及び信徒代議員　各位

＋ハリストス復活！

二〇二一（令和三）年度東日本主教教区「教区会議」を左記の日程により開催します。

記

一、場所　仙台ハリストス正教会

二、日時　6月27日(日)　12時半より

※詳細は後日送付される開催要項をご覧ください。

令和3年5月18日

日本ハリストス正教会教団
東日本主教々区
仙台の大主教及び東京の副主教
セラフィム

人物消息

―敬称略―

（2020年12月～2021年4月）

◆永眠［教会名・聖名・氏名・永眠日］

札幌　ワシリイ　武川征人　2月3日
ハリスティナ石井カネ　2月5日
エフゲニヤ　佐藤　翠　3月3日
アガヒヤ　斉藤裕子　3月4日
ダリヤ　増田　絹　3月11日
小樽　イリナ　鈴木美春　2月3日
函館　リディヤ　森　久子　11月8日
シメオン　宮崎義人　12月27日
モイセイ　齋藤貞夫　2月6日
パウェル　高島俊彦　3月8日
エウゲニヤ　加藤美津子　4月1日
ナデジダ　岡田みどり　4月18日
盛岡　マリヤ　遠藤和子　1月26日
山田　マルク　横田明夫　2月18日
フェオドラ　横田さだ　3月12日
遠野　マカリイ　荒川京一　4月11日
ミハイル　荒川富美男　5月10日
仙台　パウェル　岡崎庸裕　1月6日
イオアン　村井正之　1月18日
パウェル　北浦恵悦　1月18日
イリナ　山田信子　1月28日
マリヤ　高橋かつ子　2月16日
ニーナ　玉置眞智子　4月13日
イアコフ　木村聡志　4月30日
中新田フェオドル　沢辺忠彦　1月28日

※永遠の記憶をお祈りいたします。

◆洗礼［教会名・聖名・氏名・受洗日］

札幌　クラウデヤ　平　涼花　11月21日
函館　アキラ　瀬沢　瑛　1月3日
仙台　イオアンナ　佐藤圭子　4月25日
イリヤ　稲田勝太　4月25日

※洗礼おめでとうございます。